学部 / 看護専門領域 / 看護の基本
科目コード：130023

看護過程論 Nursing Process

担当教員	寺井梨恵子、中田弘子、石川倫子、木森佳子、田村幸恵、瀬戸清華、中嶋知世、三輪早苗				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。				
開講年次	2年次前期	単位数	2	授業形態	講義
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	看護過程、臨床判断				
学習目的・目標	【学習目的】 アセスメント、看護診断、看護計画の立案、実施、評価のステップを理解し、看護過程の基本的な展開技術を養う。 【学習目標】 1.人間の基本的欲求について説明できる。 2.人間の生活行動と健康状態とのつながりを統合してとらえることができる。 3.対象理解のための情報収集について説明できる。 4.収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる。 5.情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題を明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。 6.看護目標を設定し、具体的に計画・立案する方法を説明できる。 7.計画に基づき実施する際の留意点について理解できる。 8.実施した看護を評価する意義と方法を理解できる。				

授業計画・内容

回	内容	担当
1-2	ガイダンス、看護における対象の捉え方、看護過程の基盤となる考え方、 看護過程とは、ヘンダーソン看護論(目的論・対象論・方法論)、 14の基本的欲求、14の基本的看護、基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状態	寺井
3	情報とは、情報収集、ヘンダーソン看護論を用いた情報の整理	
4	14基本欲求の充足・未充足のアセスメント（原因・誘因、強み、なりゆきの分析）	
5	看護問題とは、健康上の問題と看護問題、協働問題と共同問題	
6	事例を通したアセスメントの実際 「患者の呼吸を助ける」	
7	アセスメントの実際①	
8	アセスメントの実際②	
9	アセスメントの実際③	
10	関連図、優先順位の考え方	
11	看護計画（看護目標、期待される結果、具体的な計画）	
12	実施（実施前の確認と判断）、報告、看護技術計画書	
13	援助計画の実施、実施後の記録	
14	評価(到達度の判定、達成度に影響を与える要因)、看護計画の終了・修正・継続、問題志向型システム	
15	臨床判断を用いた思考	

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槙ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 秋葉公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版、ヌーヴェルヒロカワ
参考図書等	金子道子：ヘンダーソン看護論と看護実践への応用、照林社、2019 江崎フサ子：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2013 永田明、石川ふみよ監修：看護が見えるvol.4 看護過程の展開、メディックメディア、2020
評価指標	課題：100%（1回目の講義ですべての課題と提出スケジュールを提示する。毎回、課題提出がある）
関連科目	看護学概論、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、診療補助技術論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、人間機能学、人間病態学、疾病障害論、臨床薬理学等
教員から学生へのメッセージ	看護過程は、看護目的を達成するための手段であり、こんな看護をしたいという看護者一人ひとりがもつ思いを具現的に実践するための方法論の１つです。授業では、「書き方」にこだわるのではなく、「なぜそのように表現するのか」という考え方を理解することを意識して参加してください。 また、本科目では協同学習により進行します。教員による評価と、学習者による自己評価および相互評価にて評価を行います。相互評価によって複数の学習者を評価することを通じて、自らを見直す機会とし、学び合いを行うことを目的としています。みなさんの主体的な参加と、「どのような看護をしたいか」について表現しあうことを期待します。